

# 十という数字！

重症児施設部会 齋藤秋雄

先日、ある会合で面白い話を聴きました。それは、「願い事や希望などを十回、口に出して唱えると願い事等が叶えられる」という話です。

※口に十と書いて「叶」という字になる。

プラス思考であれば脳が活性化し、好循環を生み好結果となり、マイナス思考であればストレスが溜まり細胞が傷つき悪い結果となります。是は脳内のミラー細胞の効果だと思えます。

十という数字に関しては色々な話があります。

○浄土真宗のある派では読経の最後に「南無阿弥陀仏」と十回唱えるそうです。

○落語会では「つ離れ」と言って縁起がよいとされています。※一つ、二つ・・・

九つ、とお

○長寿の呼び方は十年単位 古稀、傘寿、卒寿、百寿

○十目の見るところ十指の指すところ

○十人十色 ○十年一昔

その他色々あります。数字で「八」は末広がり縁起がよいとされ、「四」は縁起が悪いとされています。

「十」にはどのような意味が含まれているのか、知っていたら教えてください。

私の座右の銘は「棺を覆いてこと定まり」です。

「禍福は糾える縄の如し」と言って人生は最後まで解りません。



石田三成が処刑される時、次のような逸話があります。三成「水が飲みたい」兵卒「水はないから柿でも食えろ」三成「柿は身体に悪い」兵卒「もうすぐ死ぬのに身体に悪いとは」と笑った。三成「今味方が現れ立場が逆転するかも知れない」最後まで諦めなかった。

私たちが苦境や困った場面に遭遇したときは、「大丈夫、絶対乗り越えられる」と十回口に唱えて子供たちのためにも乗り越えましょう。一度試してみても如何ですか。信じる、信じないは貴方次第です。合掌

## 編集後記

今回の特集は”web勉強会に参加しての感想”です。毎日の介護に感染症対策が加わり疲労が蓄積されていることでしょう。「困った時はプラス思考」他には、「困れば脳が喜ぶ」という記事を見つけました。生きていれば悩むことばかり。でもそれが、脳の働きを良くしていただければ喜ばしい事です。たまには自分へのご褒美として何か美味しいものを食べる・気晴らしにショッピングする等を私はしています。面会解除されたら、元気な顔を見せてあげたいので大いに脳を働かせていきたいと思えます。【宝】



～きずな～

2022年5月29日 第18号

発行責任者：会長 牧野和江

福島県重症心身障害児(者)を守る会

いわき市江畑町小能田 40-2(富岡方) TEL:0246-63-3431

## 【コロナ禍 2】

一年前この欄に同じ表題のことを書きました。

そしてまた同じ新型コロナについて書かなければならないとその時には想像もしていなかったというよりはそうは思いたくなかったのかもしれませんが・・・

一時感染状況が小康状態に見えた時があり、施設入所者は、そのほんのわずかな期間に制限付きとはいえ面会が可能だった時期を除けば2年半全くふれあいの時間を持ってない状態が続いています。

在宅の方たちにとっては、感染の危険を出来るだけ避けるために家族以外の方々との接触の機会が全くなくなっている方もいます。

限られた空間の中だけで暮らすことによるストレスは計り知れないものがあります。

対面で多くの方々とお話できる日が来ることを願うばかりです。

## 絵本とわたし

福島県重症心身障害児(者)を守る会  
会長 牧野和江

無機質だった風景が色とりどりに染まる季節がようやくやってきました。

今年こそは、ポカポカ陽気に誘われてルンルン気分で・・・と、大昔何かで読んだフレーズが頭をよぎります。

この2年コロナ禍により、守る会のイベント中止を余儀なくされスティホームの日々・・・みなさまいかがお過ごしですか？

私は以前より本屋に行くことが多かったのですが、眼に入れても痛くない(?!)"孫"誕生により、絵本コーナーで過ごす時間が多くなりました。

ほほえましい絵、カラフルな色、心温まる言葉 etc 忘れかけていた優しい気持ちを思い出させてくれ改めて絵本の面白さに魅了されています。

子どもが小さかった頃、我が家のクリスマスプレゼントはふたつ、ひとつは子どもの要望の品、もうひとつは絵本。イブの夜そお～と枕の下にしよばせ、朝「わあ～サンタさんから絵本だ～♡」と喜ぶ笑顔が見たくて、いつの頃まで続けてたかなあ～、そして今、孫へ”サンタの絵本”が復活しました。

昨年、エリックカール(絵本作家)の逝去の知らせは、子、そして孫へ送った初めての絵本”はらぺこあおむし”でしたので想いもひとしおでした。小さなあおむしがたくさんいろいろ食べてやがて大きな美しい蝶になる。”〇〇ちゃんは大きくなったら何なるの？”と何度も読み聞かせした絵本だったからです。

子どもに”大きくなること”成長する”ことへの夢や希望をたくさん与えてくれました。

みなさんも子どもさんと楽しんだ大切な絵本があるのではないですか？今年もまた子どもたちの笑顔を想いながら、とっておきの一冊を探しに”こだわりのある本屋”を巡ることが、今の私の生活に潤いを与えてくれています。

一日も早くいつもの日常が戻り、守る会の活動を再開させみなさんとお会いしてそれぞれの彩のあるスティホームの日々のお話をお聞きするのを楽しみにしています。



# 「両親の集い Web 開催」に参加して

在宅 三橋さゆり

令和3年11月6日(土)10時00分から、会津若松市生涯学習総合センター【會津稽古堂】において「両親の集い Web 版」が開催されました。

この集いは、これまで実施されていた守る会本部主催の各種補助事業や守る全国大会、ブロック大会などが新型コロナウイルスの感染拡大に伴い大勢の人が集まり開催される会議や事業が制限されたことから、各県支部単位を基本として支部活性化補助事業の採択を受け開催されたものです。

今回の研修では、Web 開催用に収録された内容を4名の講師の先生方からそれぞれの立場に応じ、障害児支援の現状や新しい時代の特別支援教育の取り組みなどについて、具体的なお話を聞くことが出来ました。

北浦会長からは、重症児者の福祉制度創成の黎明期に、重症児であるわが子を背負いながら厚生省(当時)への陳情や国会要請などの活動を行い現在の制度につなげてきたお話を聞き、万感胸に迫るものがありました。

このような研修会に参加するのは初めてで、知らないことがあまりに多く理解するのに少し時間がかかってしまいました。

なかでも、入所施設に子どもを預けることが人権侵害だと批判された過去があったと知り、衝撃を受けると同時にとても悲しくなりました。

しかし、末光先生の『地域から愛される存在であること』の言葉で、少し救われたような気持ちになりました。

現在、発達障害や医療的ケア児についてクローズアップされることが多く、医療的ケア児支援法が成立するなど障害児者の福祉制度は追い風にも感じられますが、重症心身障害児者の支援については厳しい現実が突き付けられていると思います。

障害の程度に違いはありますが、同じ子を持つ親として、今できることをする。それは簡単なことではありませんが、時代が変わっても親が子を思う心が変わりはありません。

この集いに参加して改めてそう感じる事が出来ました。また、このような機会があれば、参加させていただきたいと思います。

## 【参加された方から寄せられた声】

- 介護職・保育士・看護師の収入引き上げ  
令和4年2月には賃上げになることは良いことです。人手不足が解消されると、より細かなサービスが受けられるようになります。また、医療的ケア児への対応が軌道に乗ることを望みます。
- 特殊教育教諭免状保有率が十分でない状況を聞きました。一人ひとりの障害等に応じた学習形態の指導は、今後どうなっていくのでしょうか？



- インクルーシブ教育を先取りしたスウェーデンモデルは、まだ理解するには時間がかかると思います。発達障害の人数が多い国日本、周りの方々の病気への理解がまだまだだからです。
- 守る会活動の礎となるお話、まったく想像以上のものでした。基本的人権の尊重は憲法によって保障されていますが、障がい者にもあるということがわかっていただけない人たちが多かったという事実に驚きました。
- いま、あたりまえのように利用できているサービスが現状維持で良いと思ってしまっは“伸びしろ”はないと思います。常によりよい環境で過ごすこと。障がい者の雇用が増えること。心のバリアフリーがなくなることなど問題はまだまだあると思います。
- 北浦会長のお話はこれからも折に触れ聞いても良いと思いました。やはり一番ご苦労した方ですので、話が始めると眠気がとびます。
- 若松在宅の三橋さん、違う視点での重症児の親としての意見を聞いてよかったですと思います。
- 北浦会長さん、様々なご苦労感謝しかありません。
- 可能であれば映像ではなく、直接本人のお話を聞きたかったです。
- 年齢的にも今の時代について行けなくなっているかもしれません。でも今自分は後見人の立場です。子どもが生きていく以上責任を果たさなければと思っています。若い時に戻りたいです。

## 在宅者が利用しやすい福祉制度へ 親としての想い

コロナ禍による自粛生活も3年目を迎え、福祉サービス利用自体を控えたり利用回数を減らしたり、病院へ行くことそのものに不安を感じリハビリを休んだり、通院(通所)回数を減らしたりと、在宅時間が増えたことにより介助する家族の負担や外出できないことで本人がストレスを感じるなど、様々な重みがかかっています。

居宅系サービスの利用には制限や限界があるので、新たなサービス内容の追加や許容範囲を広げてもらうなど、利用者やその家族にどのようなニーズがあるのか、具体的な聞き取り調査や、実態調査などができればよいなと思っています。

行政が行うものとは違い、障害者本人や家族からの目線で、話が聞けたらなと思います。

訪問系サービスの利用条件(基準のようなもの)の緩和と、受け入れ数の増加など病院への協力をお願いしたいです。

訪問看護や訪問リハビリなどはハードルが高く、利用を希望しても主治医から許可が出ないケースもあります。

障がい児(特に医ケア児)が支援学校卒業後に、通所できる事業所が少ない現状に不安を感じています。

※会津若松市内では2ヶ所のみ。先に利用している方々が優先されるため、契約できたとしても利用回数に制限あり。

限られた福祉資源に、会津若松市内はもとより近隣市町村より利用者が集まるので、若い世代の利用が困難になってきている。

このようなことを考えています。【三橋】

